

ひゅーまん ねつとわーく

地域に生きる

2007年4月 発行 / 第29号

社会福祉法人北摂杉の子会 社会福祉法人北摂杉の子会後援会 萩の杜家族会 ジョブサイトひむろ家族会
ジョブサイトよど家族会

〒569-1054 大阪府高槻市大字萩谷14番地1 TEL 072-699-0099 FAX 072-699-0130 info@suginokokai.com



ジョブサイトよどの新しい作業場“Jランチ”で作業中の野口公世さん

北摂杉の子会の新中期計画と平成 19 年度実行計画の策定について



社会福祉法人北摂杉の子会

理事長 ^{なか} ^{むら} ^{せつ} ^し
中 村 節 史

〈みんなで作った中期計画〉

この度私たちは、新たな中期計画とその初年度にあたる平成 19 年度の実行計画を策定し、3月25日の理事会で承認をいただき新たな活動のスタートを切ることになりました。

平成 16 年にスタートした中期計画（第 1 次 5 ヶ年計画）はお陰さまで、2 年前倒して計画を達成する見込みが立ちましたので、昨年度の事業方針の中で、平成 18 年度中に新中期計画（平成 19 年から始まる第 2 次 5 ヶ年計画）を策定するお約束をいたしました。

昨年 11 月に策定の指針を出ささせていただき、12 月より各部ごとに、出来るだけ職員全員参加で策定の討議を重ねてもらいました。新中期計画のネーミングを職員から公募し、“目指せ！地域のもり 5 ヶ年計画（共生フロンティアプラン）”という名前がつくことにもなりました。まだまだ不慣れのため、体裁など出来栄として満足できるものではありませんが、職員の人たち自身の手で作上げたというところに意義があると思っております。

〈今までに築き上げてきたもの〉

1999 年 4 月に萩の杜を開所してから、順調に発展を続け、現在では入所更生施設、通所授産施設、ショートステイ、ケアホーム、児童デイサービスセンター、地域移行支援センター、大阪府よりの受託事業である「大阪府発達障害者支援センターアクトおおさか」など 12 の事業に携わっており、120 名の職員で約 900 名の利用者の方の支援を行っております。又、幼児・学齢期から青年・成人期までの一貫したサポート体制を有することにより、社会からその存在を認められるような法人に成長してきております。

この 8 年の間で、体制としては一応整った形となり、職員の頑張りと成長、ご家族の継続のご支援も相まって、活動の中身としてもまずまず満足できるものであり、特に自閉症・発達障害に対する取り組みは他には引けをとらなかつたと当事者の一人としても評価はいたしております。

〈我々の目指すものとのギャップ〉

一方、我々が当法人を立ち上げた時に掲げた理念「地域に生きる」の本当の実現、そのために求められる諸活動の水準の高さと現在の水準とを比較し、そのギャップの大きさを冷静に考えてみますと、とても喜んでいられる状態ではないということもまた、明らかなことであります。

- ①利用者に対するサービスは十分であろうか。
- ②職員全員が安心して誇りを持って働ける環境やシステムになっているであろうか。
- ③ご家族からの信頼は本当に受けているのだろうか。
- ④障害のある方が自立して生活するための就労支援はどの程度のレベルだろうか。 などなどを考えると為すべきことの多さに身が震える思いがいたします。

我々はもう一度原点にかえって、我々の目指すものを明確にし、その実現のための活動に取り組む時期が来ていると思っております。

〈国の福祉政策の方向〉

障害福祉を取り巻く環境が近年大きく変わってきているということをご存知の通りです。

国の政策の方向を象徴的に表しているのが、「障害者自立支援法」で、「ノーマライゼーション」「リハビリテーション」および「インクルージョン（共生）」という理念については望ましい方向に進んでいると思いますが、それを実現するための施策に欠点が目立ち、特に財政面での手当てがひど過ぎると思っております。国としてもこれらの問題点は徐々に修正していくと思いますが、障害者福祉の社会においても、きちんとした経営ができなければ、存立を許されないという時代がきていることは間違いありません。日本の障害者福祉の方向はこの 5 年で決まると思っています。

〈この 5 年間で我々がなすべきことの明示〉

○新中期計画及びその初年度である平成 19 年度事業計画の実施にあたり、以上述べました状況を踏まえた上で、法人として次のような経営方針を出させていただきました。

社会福祉法人北摂杉の子会中期経営方針（平成19年～平成23年）

“目指せ！地域のもり5ヶ年計画（共生フロンティアプラン）”の達成を合言葉に、全員の念を一つにして、当法人の理念「地域に生きる」の活動が、より具体的、日常的に実践されている姿をつくりあげる。

- 1 利用者それぞれのニーズに基づいた個別の支援と高い専門性により、今後共、利用者サービス水準の維持、向上に努める。特に自閉症・発達障害については名実ともに近畿NO.1の座を堅持する。
- 2 障害者福祉を取り巻く経済的環境に厳しさの続く中、安定した経営を続けるために、更に合理的、効率的経営を進め黒字体質の維持、向上を図る。具体的には5千万円以上の内部留保の積み上げを行い財務体質を強化する。
- 3 法人各組織の機能と知見を結集し就労支援活動を強化する。特に自閉症・発達障害については、先進的就労支援モデル、就労支援プログラムを構築することにより、大幅な就労実績の拡大につなげていく。
- 4 当法人に適した授産事業の確立を急ぐことにより、授産事業による安定収益の確保と、就労支援についての利用者の多様なニーズに対応できる体制を構築する。具体的には陶芸、調理、洗濯、メンテナンス、印刷の当法人における授産モデルを明確にし、それぞれの事業を推進する。
- 5 法人の持続的発展と当法人のステークホルダーの地域に於ける生活支援ニーズに的確に対応するため、次の3つの新事業を重点的に推進する。
 - ① 中規模のケアホームの設立（平成21年度までに1ヶ所）
 - ② ガイドヘルプ・ホームヘルプ事業の立ち上げ（平成20年度）
 - ③ 大阪府南地域の児童デイサービス事業の開設
- 6 社会福祉法人北摂杉の子会という法人の社会的責任（CSR）の重さを全員が自覚し、「法令順守」「危機管理」の体制を整備し、「透明度の高い運営」「自浄作用のある組織」の実現を目指す。「職員の雇用」については、障害者福祉に携わる職員が、安心と誇りを持って仕事に取り組むことができる環境と仕組みの整備に取り組む。

平成19年社会福祉法人北摂杉の子会年度方針

●平成19年度は当法人の第2次中期計画（平成19年～平成23年の5ヶ年計画）の初年度として、5年後のあるべき姿の実現に向け着実な第一歩を踏み出すと共に、喫緊の諸課題の解決に全力を尽くす。

●障害者自立支援法の具体的施策の動向については、組織全体で常に目配りを行い、正確な情報を迅速に把握する。又新事業体系への入所・通所施設の移行については、障害程度区分の判定状況を十分検討し、ご家族を含めその移行に十分納得性がえられた場合には前向きに進めることとする。

- 1 昨年の反省を生かし、主として嘱託職員の強化と職員の配置バランスの再見直しを行なうことにより利用者に対するサービス水準の改善を図る。
- 2 法人全体の経常収支は今年度も黒字を継続する。特に昨年苦戦した通所の2施設については事業規模の拡大により、事業基盤を強化する。
- 3 ジョブサイトよど、ジョブサイトひむろ、アクトおおさかを中心に、法人各組織が有機的に連携し、就労支援活動強化に法人のベクトルを合わせる。
- 4 当法人に適した授産事業を確立するため、授産事業の全体構想、方向性、現在の仕事の再評価、展開策等を今年度の将来構想委員会のテーマとして検討を進める。
- 5 新規事業については次の3つを重点的に検討する。
 - ① 懸案の中規模ケアホームの設立についてはフィージビリティスタディを今年度中に完了させる。
 - ② ガイドヘルプ・ホームヘルプ事業については来年度立ち上げに向け準備を行う。
 - ③ 大阪府南地域の児童デイサービス事業については、着実な立ち上げに向けニーズ把握を徹底する。
- 6 「法令の遵守」、「危機管理の徹底」、「透明性のある組織」など法人としての社会的責任を自覚して活動に取り組む。

この方針を受けて策定した新中計画並びに平成19年度実行計画を達成することが、当法人のステークホルダー（利害関係者）の期待に応え、法人の社会的責任を果たし、我々の目指す法人の姿に一歩でも近づくことになると思います。みんなの念を一つにして、新年度の活動に入りますので、今後とも変わらぬご支援のほど宜しくお願い申し

上げます。

なお、新年度に入る前の環境の整備として、当法人のCSR（社会的責任）の柱の一つである“人材の確保・育成”を進めるための施策としての「短時間正職員制度の導入」「嘱託職員の給与規程の導入」及びその他「諸規則・諸規定の改正」を3月25日の理事会にお諮りし、承認をいただきました。

発達障害の人たちと職場をつなぐ就労支援プロジェクト 「ジョブジョイントおおさか」



大阪府発達障害者支援センター アクトおおさか

就労支援担当 ^{たか}高 ^{はし}橋 ^{あきこ}亜希子

アクトおおさかにて発達障害に関して様々な相談を受け、個々のニーズに応じたサービスを提供する中で、就労に関するご相談に関しては、継続的に支援するという仕組みがなく、これまで十分なサービスが提供できていたとは言えませんでした。現状において、発達障害の方々への包括的な就労支援サービスがないということを我々法人は重く受け止めて、この「発達障害者の就労支援」という分野において体系だったサービスを構築していくことを決めました。

まず参考にしたのが、国内でこの分野における先進的事例である、社会福祉法人横浜やまびこの里の運営する「よこはま・自閉症支援室（横浜市発達障害者支援センター）とワークアシスト仲町台（障害者地域作業所）の支援モデルでした。まず相談支援施設においてニーズ把握を行い、個人支援の方針をたてます。そして日中活動支援現場にて作業を通

してご本人を評価していきます。さらに一定期間通所いただく中で就職に向けての習慣を養っていくための助走の場としていただくという方法です。すめておられ、相談支援と支援現場が有機的に連携をはかっておられました。

幼児期から学齢期、青年・成人期にかけての包括的な支援という考えのもと、法人では「発達障害者の就労支援」に力点をおいた施設として、昨春にジョブサイトよどを開設いたしました。そこに「発達障害の人たちと職場をつなぐ就労支援プロジェクト ジョブジョイントおおさか（通称：JJ）」を立ち上げ、アクトおおさかの就労支援担当をジョブサイトよど内にうつすことで、相談支援と現場支援の連携をより強固なものとししました。つづく10月にはジョブサイトよどに就労支援専任の職員を配置して、プロジェクトは具体的に活動を開始しました。

◆ジョブジョイントおおさか プロジェクトの機能

部署・事業名	その機能と役割
アクトおおさか 〔発達障害者支援センター事業〕	発達障害のある人、家族、関係機関からの相談。 ご本人の情報収集とニーズの把握
ジョブサイトよど 〔知的障害者通所授産施設〕	ご本人の評価（アセスメント）、作業支援。 一定期間通所等、就職に向けての助走の場
ジョブジョイントおおさか 〔就労支援プロジェクト〕	職場の開拓、職場実習・職場での集中支援 フォローアップ（継続的な支援）

JJでは、既存の就労支援機関・作業所等のトレーニングや就労準備支援ではどうしてもうまくいかない方にも、一人ひとりのニーズをより深く掘りおこすことで就労支援を行なっていきたいと思っています。また、療育手帳や精神障害者保健福祉手帳をもっていないために支援サービスの利用ができなかった発達障害の方にも、働くための準備やご本人のアセスメントを目的として、ジョブサイトよど内で軽作業や事務、清掃作業などに参加いただけ

る「職場体験プログラム」（支援の流れ図参照）を用意しました。アクトおおさかでのご相談から実際の支援へと結び付けていく仕組みが整ったことは、とても大きいと実感しています。

プロジェクトの具体的な始動体制が整った昨秋より、ジョブサイトよどの利用者とアクトおおさかの相談者の方から11名の方を対象者として、支援を開始しました。支援の流れは、アセスメント・個別

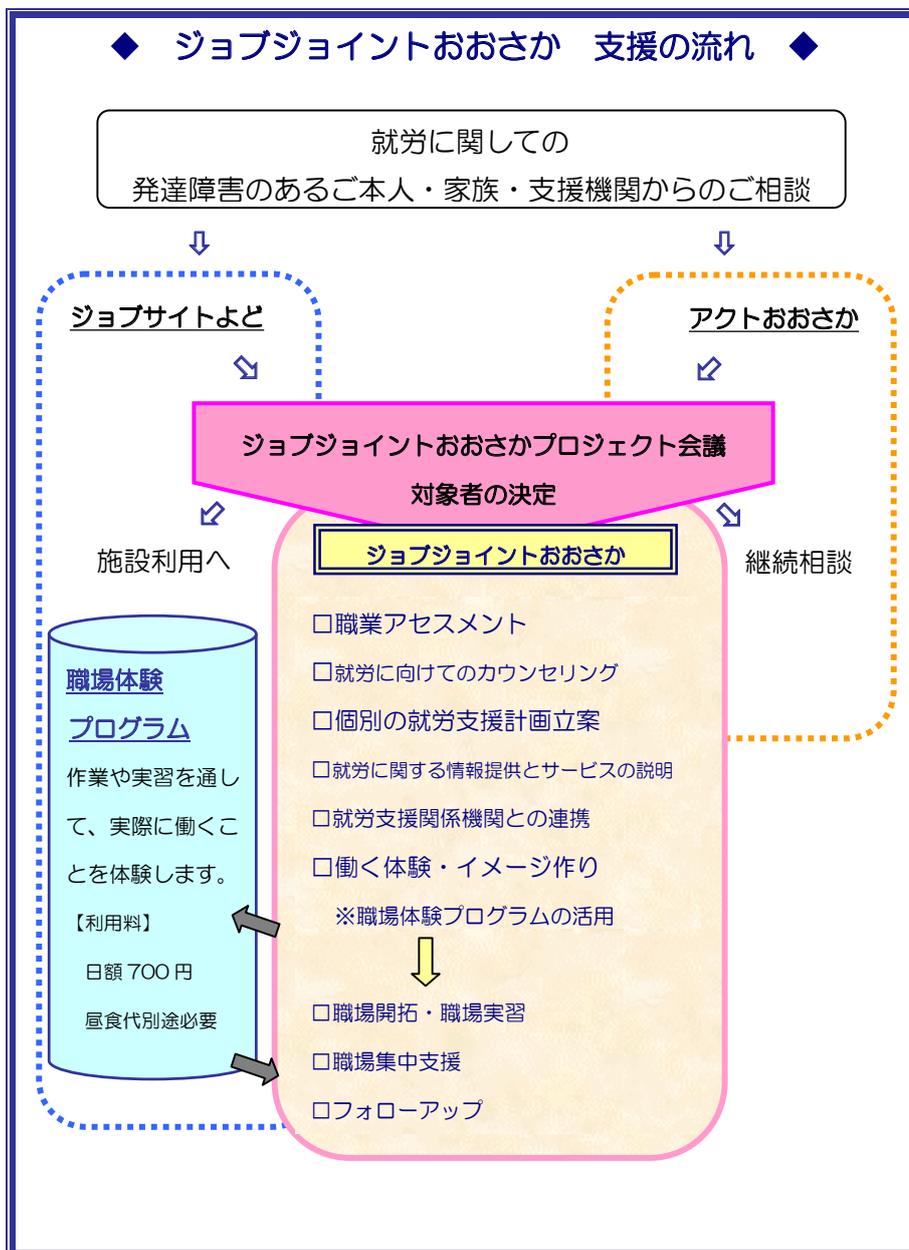
の就労支援計画の立案・計画に基づいた課題の実施と評価・ジョブマッチング、職場定着支援、フォローアップとなります。一人一人の課題やニーズを見ながらすすめてきて、スタートから3月までで、就職者1名、実習者（予定者含む）2名を出しています。

この支援を通して課題や新たな発見も見えてきています。本人に合う仕事や職種、働き方を見つけるために、実際の職場に近い環境と場面作りが必要だと感じています。「仕事をする」「働く」ということのイメージがなかなか抱けない方が多いので、企業等への職場見学でイメージをつかんでいただき、実習を通して「働きたい！働けるん

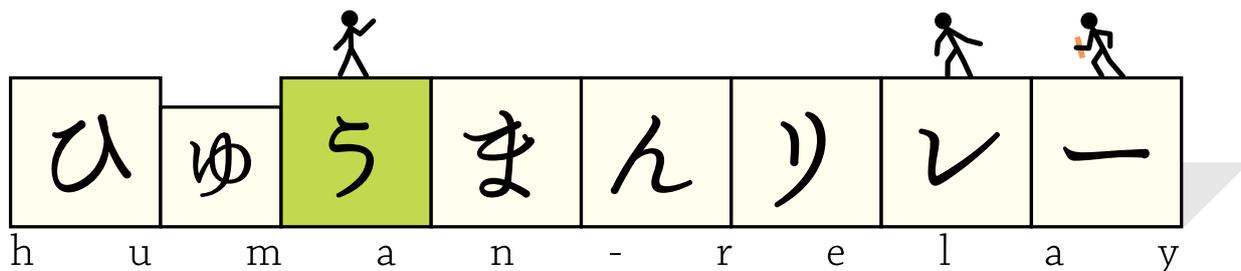
だ！」という自信につながるような支援を行いたいと思っています。これらのことを実現していくために、実習先企業の開拓や支援体制の基盤作りが今後の大きな課題です。

また、就職後「働き続けるための支援」が非常に重要になってくると考えています。働き続けるためには、現場への定期的な訪問はもちろんのこと、生活面でのフォローや健康面、金銭管理面等、支援の幅が広がることも予想されます。

駆け出し始めたばかりのプロジェクトですが、一步一步確実に、発達障害の人たちが自分らしく働くための橋渡しをしていきたいと思っています。



※ ジョブジョイントおおさかでは、発達障害のある人が実際に働くことを体験できる企業（実習先）を探しています。ご協力をよろしくお願いいたします。



今月号より様々な方々の繋がりの中で、様々なメッセージをいただく、「ひゅまんりー」を企画しました。どのような方々からメッセージをいただくこととなるのか、私ども法人発の人々との繋がりを楽しみとともに期待しています。

さて、まず初めに、沖縄県にある社会福祉法人「若竹会」総合施設長の村田涼子さんにご登場願いました。

村田さんと私との初めての出会いは、昨年2月に企画した「オーストラリア・ヴィクトリア州における触法に関連する知的障害のある人たちへの支援」についての研修ツアーでした。

その研修ツアーを通しての村田さんの会話の中から、障害のある人たちに寄り添いながら真剣に生活を支えておられる姿勢に大変共感しました。その

後、昨年12月に沖縄県を訪れる機会があり、村田さんの施設「社会就労センターわかたけ」「地域生活支援センターEnjoy」におじゃましました。利用者・職員のみなさんが自然体で生き生きと活動されている姿に直に接し、私自身が癒され、多くのパワーを頂きました。私自身が常々大切にしている一つとして、私どもの施設で暮らし、活動する利用者だけではなく、施設を訪ねてこられる様々な人たちも癒され、生きるパワーが得られるそんな施設でありたいと願っていることです。これからも村田さんとの繋がりから法人間の交流と連携が深まることを願いつつ村田さんにバトンをお渡ししたいと思います。

(常務理事 松上利男)



社会福祉法人 若竹福祉会 総合施設長 **村田 涼子**さんより

は え 南風の風にのせて

青い空と蒼い海。四方を海に囲まれいくつもの島々から成る、亜熱帯の島「沖縄」。

古くは「琉球」と呼ばれ、唐の世（中国の時代）から大和の世（日本の時代）、大和の世からアメリカの世、そしてまたアメリカ世から大和の世へと、侵略され続けた歴史をもつ我が島沖縄。この島にはこうした苦難の時代を生き抜いてきた先人たちがいる。私は時々そうした先人たちの歴史に思いを馳せ、苦難の歴史をどう乗り越えてきたのだろうかと考える。

それというのも昨年の障がい者自立支援法の施行以来、思い悩むことがあまりに多く、トンチ問題のような、からくりの中にあるような錯覚さえ覚えてしまう。頭のよさを誇ってもどうにもならないが、この国は弱い人に対する優しさとか、愛だとか、人を思いやるまなざしと言ったような、目に見えないけど失ってはいけない人間の本质のようなものを失いつつあるのかもしれない。

…と、こんな文面で始まると読まれる方は、固苦しく思われるかもしれないが、思ったこと、今感じていることを書いて欲しいということなので、今日は目に見えないけど、在るのだという

ことについて、亜熱帯の島沖縄の歴史に少し触れながら、南風の風^{はえ}にのって、私の思うことを伝えられたらと思っている。

私が小学校低学年の頃、沖縄には「共通語励行」があった。学校では方言で話をしてはいけないという規則があって、少しでも方言を使ったら罰を受けた。暦も旧暦が主流だったが新正月運動が推進され、旧暦から新暦のお正月へと変わった。学歴も本土に追いつけ追い越せが大きな目標として掲げられていた。ラジオから流れるのは三線^{さんしん}の音に乗った琉球民謡だったが、一日中流れるラジオに近代文明の開花に驚いたオバー^{おー}が、ラジオに向かって「一日中話していたら疲れるから、休まないといけないよ〜」って言ったものだ。今の時代にこんな話をすると一笑されてしまいそうだが、時代錯誤とはこんなものだ。私たちは正しい日本語を使うようにと教育され、本土化（沖縄人をウチナンチュー、本土人をヤマトウナンチューあるいはナイチャーと表現する）するようにと本土並みをめざしてきた。そして今、沖縄では方言を話せる若者たちがいないという。日本語を英語で訳せないような微妙なニュアンスが、その土地や文化にはあるが、それは沖縄方言も同じだ。沖縄には培ってきた歴史や文化の中から生まれた素晴らしい言葉がたくさんある。最近そんな文化や方言を見直そうという運動さえ生まれている。

本土の人たちが沖縄に旅すると、ゆるやかな時間になぜか癒されるという。「沖縄タイム」がそうなのだろう。言い換えれば、「テーゲー」（いいかげん）でファジーなのだ。白か黒かではなく混沌としたようなもので、事が起きたら責任追及するのではなく「だからよー」（ほんとだね）と他人事のように側に置いておいて、深く、深く悩んでどうしようもない事には「なんくるないさ」（なんとかなるさ）と事を神に預けるといったようなものだ。それが沖縄文化でいうチャンプルーに象徴されているように思う。チャンプルーとは混ぜり合うことだ。

現代は心の繋がりが希薄になってしまった時代だ。共同体そのものが崩壊しているし、人が孤立している。だからこそ沖縄のチャンプルー文化が必要とされているのかもしれない。例えば、ゴーヤチャンプルーについて、オバーに話してもらおうと「ゴーヤはねえ、アジアや中国から入ってきたけど、生では苦くて食べられないさあ。だからウチナンチューは、中のはらわたを出して、切って炒めたらどうかねえ…って考えたわけ。それで鍋でゴーヤを炒めたら、ゴーヤだけではさびしいから、豆腐が「私も混ぜたら美味しいよお〜」って、一緒に混ぜたわけ。そしたらねえ、もやしも、デンマークのポーク缶も混ぜて、卵も混ぜりあったら、これが美味しくてねえ。これがウチナーのチャンプルーになったんだよ」って具合になる。

一つだけで醸し出す味もある。しかし沖縄のように四方を海に囲まれた島の人々は、他所から来る人々と戦うことより、共存して生き抜くことを大事にしてきたのだと思う。そこから生まれたのが「命どう宝」（いのちに勝るものはない）だ。戦後 63 年を迎えた今、私たちは豊かさ引き替えに何を失ったのか見直す時期^{とき}にいる。沖縄の人々は何かにつけ「ゆいまーる（助け合い）」の精神で生きてきた。幾多の苦難を乗り越えてきた私たちの先人に、学ぶべきことがたくさんある。現代は見えるものが全てのようになってしまったが、見えないものにこそ人間の本質があるのだと思うこの頃である。

昨年 11 月、縁あって奈良県の「社会福祉法人青葉仁会」理事長、榊原典俊氏にお会いした。福祉改革の真っ只中であって自らの苦勞をいとわず、前向きに物事を考える姿勢に多くの元気を頂いた。こんな時代だからこそ榊原さんのような発想と夢をもった生き方に学びたいと思う。

アクトおおさか開設5周年記念事業を終えて



大阪府発達障害者支援センター アクトおおさか
センター長 新 澤 伸 子

アクトおおさか開設5周年記念事業となる講演会「自閉症の人とのバリアフリーをめざして一点の支援から面の支援へ」を、当法人主催にて開催いたしました。「大阪府発達障害者支援センター アクトおおさか」は、平成14年6月に当法人が大阪府から委託を受けて開設したもので、発達障害者支援法において、国の「発達障害者支援センター運営事業」として位置づけられるセンターです。3月17日の当日、会場となったクレオ大阪北のホールは、定員430名の席が満席となりました。当センターおよび記念講演に関心をお持ちいただき、たくさんの方に足を運んでいただけたことを嬉しく思うとともに、感謝申し上げます。

冒頭の挨拶では、大阪府健康福祉部医療監の高山佳洋氏が、アクトおおさかの5年間の取り組みについて、府の施策との関連でお話し下さいました。府の発達障害者施策においてこの5年間大きな役割を果たしてきて今後にも期待していると、ありがたいお言葉をいただきました。

記念講演では、5年前の開設時の記念講演会でも講演



会場の様子

いただいた川崎医療福祉大学教授の佐々木正美先生に、再び講演をいただきました。「自閉症スペクトラムの人への支援と

共生～今後の方向性～」という題で、視覚的な世界や具体的で個別的なことが意味をもちやすいという自閉症の特性を理解すること、さらに一人ひとりの個別性をより深く理解することが大切であるというところからお話を始められました。発達障害の人は発達が遅れているのではなく、発達の偏りであること、世の中にはバランスよく発達している人もいれば、突出した能力を示す人もいること、どちらがよいとも悪いとも言えないこと、自分が持って生まれたものを大切にしていけることが大切であることを説かれました。佐々木先生はお話しのなかで、「支援よりもまず理解してほしい。」「理解できないのであれば、支援しないでほしい。」という自閉症の人自身のこと

ばを、繰り返されていました。参加者の感想からも、このメッセージは強烈なインパクトを与えたようでした。私自身もそうですが、果たして今まで私は支援と称して、本当にその人を理解して関わっていたのだろうか、自問自答せずにはいられませんでした。二次障害を予防するという観点から、早期からの正しい理解に基づいた適切な対応が重要であり、中でも学校教育の結果が、その人の生涯を決定的に左右し、それは後から取り返すことのできるものではないということ、多くの自閉症者とそのご家族と接してこられた体験から、静かに強くおっしゃいました。今後の方向性として、大学教育の充実（当事者の自己理解、家族の理解と受容、教員や学生仲間の理解）や、居住・就労・余暇の活動を個人に合わせて、人生に幅広く支援していく。そのためには、点から線へ、そして面に理解者と支援者を根気よく開拓していくことの重要性を示してくださいました。

午後の部では、「アクトおおさかのめざしてきたこと」と題して新澤が、自閉症の特性に合わせた支援ソフトの共有と支援システムの構築をめざして取り組んできたことなど、5年間の経過について報告させていただきました。それに続き、アクトおおさかのコンサルテーション事業を受けて、連携してきた就学前、学齢期、成人期の施設・学校から実践報告をしていただきました。

まず就学前施設として、こどもデイケアいずみの澤井真理氏と田之上晶子氏からは、一人の女の子、Nちゃんへの3年間の取り組みを軸に、クラスの他の子どもへ、他クラスへ、そして保護者との共通理解をもちながら実践を広げていく過程を、ビデオ映像を交えて紹介していただきました。参加者のアンケートからも、「ビデオ映像があったので、わかりやすく説得力があった。」「子どもたちの生き生きとした表情が印象的だった。」という感想が寄せられました。

次に、学齢期の取り組みとして、吹田養護学校小学部主事の佐竹英信氏から、小学部における実践を中心にお話しいた



佐々木正美先生



シンポジウム

その有効性が確認されていったことが、2003年にアクトおおさかの学校教育支援モデル事業を小学部として受け入れることにつながったということ、モデル事業の1年目には2事例を中心に、2年目にはほとんどの学年が事例を出して実際に事例検討を行う形になり、学部全体としての取り組みに広がっていった経過をていねいにご報告いただきました。

成人期の取り組みとしては、金剛コロニーすぎのき寮の大中りよ子氏に報告いただきました。障害特性の理解に基づく環境の調整、職員の対応の統一、PLAN→DO→SEEのプロセスをいかにして組織的に取り組んできたかについて、障害特性の理解のためのリーフレットを作成したり、支援計画書やマニュアルを個々の事例に合わせて作成したりなどのさまざまな実践例をスライドで示しながら報告してくださいました。

最後に「アクトおおさかのこれから」について、就労支援担当の高橋から報告いたしました。現在不足している成人期の発達障害の人たちを支えるサービスとして、家族への支援、本人への支援、就労への支援を3つの柱として、既存のサービスにのらない発達障害の人たちへのサポートをモデル的に開発し、社会資源の開拓と他機関との連携により府内に広げていくという今後の方向性についてお話しさせていただきました。

各報告につづいて、「支援をつなぐ～点の支援から面の支援へ～」のテーマで、佐々木先生と実践報告者でシンポジウムを行いました。支援をつないでいくために何が必要か、何が妨げになるかといった点について、それぞれの立場から貴重な提言をいただきました。

朝から夕方までという長いプログラムにもかかわらず、多くの方々に最後まで熱心にお聞きいただけたことに、佐々木正美先生や報告いただいた方々のお話しがいかにも有意義なものであったかを感じられました。また熱心な聴衆があったからこそその熱のこもった話になったのではないかと思います。

終了後回収したアンケートは150枚にもおよび、びっしりと感想を書いて下さった方々も大勢おられました。ここに、いただいたアンケートの一部をご紹介します。

■佐々木先生の本を何冊か読ませていただき、初めて講演会を聞かせていただきました。

我が子が自閉症と認めて4年になりますが、「支援より

だきました。1998年の開校以来、一部の先生を中心に、時間割や行事の予定を絵や写真で示すなどの視覚支援の取り組みが始まっており、

理解」という一番大事なことを忘れていたのを気付かせていただきました。また新しい気持ちで子供と接する事ができそうです。(ご家族)

■23才でアスペルガーの診断をいただいたので、長い間親もまわりも理解してあげられず、本人につらい思いをさせてしまいました。わかった今でもなかなかよき理解者にはなれていないようです。今日の講演を機にもう一歩踏み出した理解者になれるよう知識を積み、長くそばにいてあげたいと思います。アクトおおさかさんの取り組みに非常に感謝しております。私ども家族の大きな支えになっております。就労支援の広き門となって、少しでも社会で生活して、生きがいのある生活ができる子供が増えるよう願っております。

たくさんのお話を聞けたこと感謝します。もっと早くこういう場に入れたらよかったですと思いますが、これからは、出来るだけたくさんの方にふれて頑張っていきたいと思います。(ご家族)

■幼児期、学齢期、成人期の取り組みの内容が具体的に報告されていて、とても刺激を受けました。将来像を見ずえて、自分ができること、施設の組織としてできることをひとつひとつやっていきたいと思います。自閉症の子ども達が「自分でできる手応え」を感じながら生活していけるように……その姿を子ども達と家族と共有できることの喜びを感じながら仕事できることを感謝してまた明日からの実践を行っていききたいと思います。(福祉関係・通園施設)

■佐々木先生の「理解してないなら支援などしないで」、「自閉症の方が『不応』と言われていた状況になっているのは、周りの人が理解できていないから」といったお話をきいて気が引きしめる思いが致しました。支援に気をとられて日々こなしているところも少なくないと思いますので、正しい理解の重要性を改めて訴えていただき、明日から心新たにやっつけようという気持ちになられた方はたくさんおられると思います。

幼児期から成人期まで、多岐にわたる皆様の支援内容を具体的にきかせていただき、深く理解することができました。視覚支援の重要性をいきいきとした顔をみせる子どもたちから学ぶことができました。自閉症及び疑いの子どもたちと関わる仕事をしているので、よりその子どもたちを理解できるよう歩み寄る心を忘れずに実践していきたいと思いました。(行政関係・保健)

最後になりましたが、佐々木正美先生をはじめ実践報告いただいた先生方、大阪府、大阪府教育委員会の関係者の皆様、そして会場に足を運んで下さった多くの皆様に厚く御礼申し上げます。アクトおおさかの5年間を振り返り、さらなる5年間の目標を見据えるよい機会を与えていただいたことを、感謝申し上げます。今後ともどうぞよろしくご支援賜りますようお願い申し上げます。

構造化のアイデア

自閉症支援部長 新 澤 伸 子

これまで当機関誌では、「ちょっと工夫、ちょっとアイデア」の中で、支援のアイデアとしていろいろな具体例をお伝えしてきましたが、それでは、それぞれの支援はいったいどのような角度からのアプローチなのかというところが見えにくかったかと思います。

その取り組みを整理する意味で、自閉症の人が様々な生活上の意味を理解して自立して生活や活動などができるような「スケジュール」や「視覚支援」についての考えの基礎になる「構造化」について、今回より4回シリーズでお伝えいたします。

第1回目は「自閉症の人とのバリアフリー」について考えてみたいと思います。

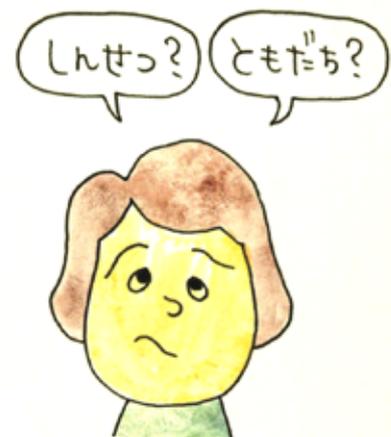
パート1 自閉症の人とのバリアフリー

「構造化」という言葉を聞かれたことのない方も、「バリアフリー」という言葉はよく耳にされるとと思います。高齢者や車いすを利用される方のためのバリアフリー住宅とか、目の不自由な方のための点字ブロックなどを、思い浮かべる方も多いと思います。

「構造化」とは一言で言うと「自閉症の人とのバリアフリー」の考え方や手立てのことです。それでは「自閉症の人とのバリアフリー」とは、一体何でしょうか？そもそも自閉症の人たちは、生活の中で何をバリアと感じておられるのでしょうか？自閉症の人たちは、少数派であり、しかもコミュニケーションに大きな障害をもっているため、世の中の多数派の人たちには、自閉症の人たちの抱える生活上の困難さが、なかなか理解できませんでした。近年、自閉症の中でも高機能自閉症やアスペルガー症候群といわれる方々の中に、言葉や文章で自分たちの世界を表現してくださる方が現れるようになり、多数派の人たちにも少しずつ「自閉症の人たちの世界」を想像してみることが可能になりました。また、認知や情報処理に関する脳科学の進歩と共に、これらの当事者の言葉を裏付ける科学的なデータも蓄積されてきました。

自閉症の人たちは、情報処理の仕方が、一般の人たちと異なっています。

言葉を耳で聞いて理解したり、見えないものを想像したりすることは苦手ですが、目で見て理解することは得意です。物事を考えるときにも、言語による概念で思考するよりも、映像的・視覚的なイメージで考えると言われています。そのため、なかなか映像になりにくい抽象的な意味や、あいまいな概念を理解することに、とても苦労をされています。例えば、5秒あればイラストが書けるような「りんご」や「車」のような具体物の言葉の理解は即座にできても、「友達」とか「親切」など絵になりにくい概念や、「適当に」「その辺」「また後で」などのあいまいな表現には、非常に戸惑ったり、独特の理解の仕方をされている場合があります。また、見えない時間軸にそって、先の見通しをもつことにも困難さがあり



抽象的な言葉の意味が理解しにくい……

ます。

次にばらばらの情報を意味のあるものとしてまとめることに困難があります。たくさんの情報を写真にとったり録音したようにそのまま記憶することは、一般の人たち以上の能力を持っている人が多いですが、その中から、必要な情報と不必要な情報を取捨選択して全体としての意味を抽出することに困難があります。そのため、刺激の多い場面や変化の生じたときには、混乱しがちであったり、不必要な刺激にまどわされて最も重要な情報の読み取り違いをしてしまったりということが生じがちです。

さらに、注意の向け方にも違いがあります。一度にひとつのことに集中する能力はとても優れたものがありますが、一度に二つ以上のことに注意を向けたり、必要に応じて注意を切り替えることが困難です。シングルフォーカスやモノトラックと言われる特性です。

もう一つ忘れてはいけない特性として、感覚の特異性があります。

視覚・聴覚・味覚・触覚・嗅覚などの感覚の感じ方が、極端に過敏だったり、鈍感だったりするために、ふつつ苦痛でないような音や匂いなどが、耐えられない刺激になったりします。感覚の特異性は、自閉症の診断基準には含まれていませんが、実際生活する上でバリアになっているのは、外から見てわからない感覚の問題であることが多いです。

このように、自閉症の人たちは生活のさまざまな場面で不自由を感じておられますが、身体的な障害と違って、外から見えにくい障害であるため、表面に表れたパニックや問題行動にのみ注目して、私たちの側に合わせようとした対応をしがちでした。自閉症の人たちの情報処理や思考や学習の仕方を私達が深く理解することによって、自閉症の人によりわかりやすく、安心して生活できる環境を創り出すことができます。

自閉症の人に限らず、私たちが他の人と意味を共有して安心して生活していく上で必要な情報とは、「いつ」、「どこで」、「誰と」、「何を」、「何のために」、「どうやって」、「どれくらいするのか」、「いつ終わるのか」、「終わったらどうなるのか」ということなどです。一般的に私たちは、ふつつ話し言葉でこれらの情報を交換しています。また、必要な情報がない時には、自分から適切な方法で情報を求めたり、今までの経験から類推したり想像したりすることができます。自閉症の人は、これらのことが困難な上に、不安な気持ちを相手に共感してもらえるような形でうまく表現することも苦手です。だからこそ、まず私たちの側が歩み寄り、自閉症の人たちとのバリアを取り除くための配慮や工夫をしていきましょう。

次回から、生活のさまざまな場面での構造化のアイデアについて、ご紹介していきますが、大切なことは、自閉症の人の特性の理解と一人ひとりの違いに合わせるということのを抜きにして、構造化の手法のみが一人歩きすることは大変危険であるということ、自閉症の人たちを尊重する気持ちを忘れてはいけないことを、最後に強調したいと思います。



授業中に先生の話聞きながらノートをとるなどの「2つのことを同時にすること」が難しい……

発達障害者ボランティア養成セミナーご報告



萩の杜

生活支援課 課長 下

しも ひろ ゆき
裕 幸

さる1月13日、法人施設・ジョブサイトひむろにおいて、『発達障害者ボランティア養成セミナー』を開催いたしました。今回の報告ではセミナー開催に至ったその経緯とセミナーでの取り組みを合わせてお伝えいたします。

当法人は『地域に生きる』という法人理念のもと、今日まで様々な事業を展開し障害のある方々への支援をおこなってきました。障害があっても当たり前前に生活できる地域を作ることは、社会福祉に携わる者に求められる社会的役割だと私たちは考えています。

我々現場職員はそのような想いを胸に利用者の生活を支え、ニーズに応えるべく支援を進めています。しかし、日々の実践を積み重ねる中で一人の支援者や一つの部署の機能だけでは利用者の想いに応えることや地域啓発を進めていくことが困難な場面も多くあります。そこで、法人内に広がる各種事業が横断的に連携することにより、それぞれの機能を活かして多様なニーズに応えることができるのではないかと考え、現場職員有志で『地域生活支援プロジェクト』を立ち上げました。メンバーは相談支援担当者、日中活動支援担当者、施設支援担当者、就労支援担当者など、現場の様々な部署から集まりました。

それぞれの部署での現状における課題としてあがってきたのが、余暇支援でした。どうしても生活や日中活動における基本的支援に力が入り、利用

者の生活から見ると大切なことであるはずの余暇に対する支援が、我々支援員だけだと手薄になりがちです。そこで、ぜひともボランティアの方々のお力を借りたいと思い、今回のセミナーの開催となりました。法人の利用者の多くは自閉症などの発達障害のある方々です。ボランティアに興味をお持ちの方々から彼らのことを少しでも理解していただき、距離が近づききっかけになればという思いで計画しました。

当日は学生や主婦をされている方、福祉職場で働いている方など色々な方面から7名の方に参加をいただきました。

まず午前中は、高槻市ボランティア・市民活動センターの金子芳恵さんからボランティア活動について講義を頂戴しました。ボランティア活動を行いたいのが何から始めれば良いのか、そもそもボランティアとは何なのか、活動時の心構えなど、ボランティアの基本的な視点から話していただきました。

日本でボランティア活動が一般的になったのは阪神淡路大震災が転機であったと言われています。あの時、全国各地から「何かできることはないか」「何かしなくては」と湧き上がる想いで被災地に向かう人や物資を送った人は多かったはずですが、そういったことを金子さんは、「お互いさまの気持ち」「社会に開かれた助け合いの気持ち」として体験を交えて説明され、「共生」の原点に向かおうと話されていました。またボランティアはあくまでも「自由意志」を原点としているので、誰かに強制されるものではなく、まずは身近な所で自分と相手のニーズが合うことを行えばいいとも話されていました。2時間という長めの講義でしたが、実際に活動してきた体験を織り交ぜた講義だけに、参加者だけでなくスタッフまでもが熱心に聞き入っていました。

午後からは、「発達障害の基礎理解」、「自閉症の特性について」という2つの題で法人スタッフが講義を行い、それぞれまとめと演習を行いました。「発達障害の基礎理解」は、自閉症、アスペルガー症候群、注意欠陥多動性障害、学習障害など各々の基礎



的な概論と特性を説明し、その後自閉症の男性が職場で働く姿を収めたビデオを観てもらいました。この男性は当法人のケアホームで生活をされているのですが、適切な支援を受けることで自立的に活動できることを映像から見ていただけたと思います。続く「自閉症の特性について」では、自閉症の障害特性を説明し、それを疑似体験する演習をおこなうことで自閉症の方々がどのように物事を見たり感じたりしているのかを体験していただきました。例えば言葉が通じないという設定で、物事を説明するために言葉以外の手段（ジェスチャーや絵を書くなどの工夫）で相手に伝えることや、ペットボトルを底から覗いて注ぎ口から物を見ることで視野の狭さや注意の向き方などを体験いただきました。最後のまとめの演習では、参加者全員に同じ指示で絵を書いてもらいましたが、実際にできあがる絵は個々それぞれに違いがあり、それをまた参加者で確認しあい自分との違いを発見してもらいました。これらのことから同じ指示でも人によって受け取り方や理解の仕方は違い、それぞれの考え方を尊重する姿勢を理解する気付きになったかと思えます。

参加者よりいただいたアンケートを紹介いたします。

■少人数で、講師の方の話がごく身近な話として聞くことができました。自分本位ではなく同じ目線に立ち共生していく、なかなか難しいことです。でもその気持ちを持たなければと改めて思いました。

■あ、そうなんだと気づかされることがたくさんありました。特にロールプレイの時に感覚の違いに驚きました。グループワークもとっても楽しかったです。同じ文章で何通りとも受け取れるということがわかりました。その違いを理解というか、受け入れることが必要なんだと思いました。発達障害の理解のしかたについて、もっとみんなで議論できたらよかったですと思いました。

■ボランティア活動の心構えについてお話がきけて勉強になりました。ただ講義を受けるだけでなく、ロールプレイやグループワークなど、実際に体験できて楽しかったです。

地域住民の皆さんに障害に対する理解を深めていただく機会を提供することも、法人理念である『地域に生きる』を具体化する1つの手段だと考えています。地域生活支援プロジェクトでは、障害があっても当たり前の生活が送れる地域づくりにむけて、そして楽しみの持てる生活を送れるよう今後も取り組みを続けていきます。

今回、「発達障害」と題したセミナーでありながら内容がおもに自閉症に偏っていたことなど、必ずしも万全の体制で開催できたわけではありませんでした。上がってきた課題やニーズを一つずつクリアしながら、発達障害支援に興味のある方、何かしたいと思う方々に今後ご参加いただけるよう、セミナーの定期的な開催を目指して前向きに取り組んでいきたいと思えます。



●お詫びと訂正

前号12ページ、ひゅうまんネットワークの記事に誤りがありました。

執筆者 南木氏の肩書きを、機関誌発行編集部のミスにより、「大阪自閉症支援センターを発展させる会オアシス18年度会長 および 北摂杉の子会 評議員」といたしましたが、正しくは、「大阪自閉症支援センターを発展させる会オアシス18年度会長」です。

執筆者の南木さまおよび読者の皆さまにお詫び申し上げますとともに、訂正をお知らせいたします。

表彰式 (18 年度対象)

当法人では平成 17 年度より、職員の意識向上をねらい、人事制度の一環として人事考課制度および表彰制度を導入しています。2 回目となる 18 年度分の表彰の様子をお伝えいたします。

4 月 7 日、法人研修会において、平成 18 年度の業務貢献表彰および資格取得表彰を行いました。業務貢献表彰は今回は 1 件のみとなりました。資格取得表彰は、昨年の 3 件にとどまったものが、今回は 16 件と大きく数を増やしています。取得した資格が業務内において存分に活かされることを期待して表彰を行いました。



業務貢献表彰



資格取得表彰

【業務貢献表彰】

前田知佳子・中野麻衣子・本谷望
「療育におけるコミュニケーション支援の充実」

【資格取得表彰】

(介護福祉士) 15 名
勝部 真一郎・木戸 貴之・黒木 由希子・下 裕幸・谷田 加奈子・
中西 彩・原田 智弘・佐々木 祐介・西野 亜紀子・池口 裕美子・
森田 耕平・清岡 愛・岩 和俊・高木 一矢・伊名岡 宏
(臨床発達心理士) 1 名
本谷 望

今回の資格取得者を含め、正職員・嘱託職員 44 名中の有資格者数 (複数取得者ふくむ)
社会福祉士：9 名 介護福祉士：13 名 精神保健福祉士：1 名 言語聴覚士：1 名 看護師：1 名
臨床心理士：1 名 臨床発達心理士：1 名 保育士：5 名

■役員人事・施設長等就任のお知らせ～

平成 19 年 3 月 25 日の第 41 回理事会・第 21 回評議委員会にて下記の役員人事が承認されましたので、お知らせいたします。

新任役員

	新	旧
沖本 卓郎	理事 (副理事長)・評議員	評議員
豊澤 進	評議員	

退任および異動

	新	旧
今村一二三	相談役	理事 (副理事長)・評議員

また、施設長・センター長・副センター長就任についてもお知らせいたします。

統括施設長	松上 利男 (常務理事)
萩の杜施設長	河坂 昌利 (地域支援課長兼任)
大阪自閉症支援センター センター長	新澤 伸子 (アクトおおさかセンター長兼任)
アクトおおさか 副センター長	谷岡 とし子 (an will センター長兼任)

■事業所移転等のお知らせ

- ・アクトおおさか事務所が移転しました。
〒532-0023
大阪市淀川区十三東3丁目18-12 イトウビル1F
TEL 06-6100-3003 FAX 06-6100-3004
E-mail act-osaka@suginokokai.com
※アクトおおさかと同じ場所にありました自閉症療育センター will については、現在の場所に残ります
- ・ジョブサイトよりに新しい作業場ができました。
アクトおおさか新事務所 (上記) と同じフロアにジョブサイトよりの “新しい作業場” J ブランチ” を開設いたしました。アクトおおさかとのタイアップをさらに強化してまいります。

■ホームページ移転のお知らせ

法人ホームページのアドレスが変更になりましたのでお知らせいたします。
新アドレス：<http://www.suginokokai.com>

掲 示 板 コ ー ナ ー

(平成 18 年 12 月から平成 19 年 2 月まで)

法人本部 総務部 掲示板

- | | | | |
|----------|------------------------|----------|------------------------|
| 12 月 6 日 | 経営会議 | 1 月 22 日 | 運営会議 |
| 26 日 | 運営会議 | 2 月 2 日 | 運営会議 |
| 1 月 10 日 | 運営会議 | 9 日 | 高槻市指導監査 (前回指導分の確認) |
| 11 日 | 経営会議 | 12 日 | 経営会議 |
| 20 日 | 法人全体研修会 | 13 日 | 運営会議 |
| | ①リスクマネジメントについて (第 2 講) | 21 日 | 高槻市障害者自立支援法説明会 |
| | 講師 株式会社近畿リスク・マネジメント (日 | 24 日 | 法人全体研修会 ジョブサイトひむろ |
| | 本経営グループ) | | ①リスクマネジメントについて (第 2 講) |
| | リスクマネジメントコンサルティング部 | | 講師 株式会社近畿リスク・マネジメント (日 |
| | 課長 海部 武史 氏 | | 本経営グループ) |
| | ②障害者自立支援法における | | リスクマネジメントコンサルティング部 |
| | サービス管理責任者の役割について | | 課長 海部 武史 氏 |
| | 講師 大阪府健康福祉室 施設福祉課府 | | |
| | 立施設グループ | | |
| | 主査 岩城 由幸 氏 | | |

萩の杜 掲示板

- | | | | |
|----------|---------------------------|---------|---|
| 12 月 1 日 | 余暇委員会 | 7 日 | 音楽療法、 |
| 3 日 | 音楽療法 | 8 日 | 生活 A D グループミーティング |
| 4 日 | 旅行委員会 | 9 日 | 歯科検診、生活 B C グループミーティング |
| 5 日 | 歯科検診、モデル施設サポート事業参加 | 10 日 | 精神科相談 |
| 6 日 | 精神科相談 | 11 日 | 旅行委員会 |
| 7 日 | インフルエンザ予防接種、健康診断 | 13 日 | 生活 D グループ内部研修会 |
| 8 日 | 旅行 (ユニバーサルスタジオジャパン) | 16 日 | 歯科検診 |
| 12 日 | 部長主任会議、歯科検診 | 17 日 | 部長主任会議 |
| 13 日 | 生活 A D グループミーティング、利用者検査入院 | 18 日 | 障害程度区分聞き取り調査 (高槻市) |
| 15 日 | 地域移行支援センター会議 | 19 日 | 生活支援係会議 |
| 19 日 | 生活支援係会議、給食会議 | 21 日 | 音楽療法 |
| 20 日 | 精神科相談 | 23 日 | 歯科検診、余暇委員会 |
| 22 日 | 障害程度区分聞き取り調査 (島本町) | 24 日 | 精神科相談、審査会用医師意見書作成 |
| 26 日 | 歯科検診、余暇委員会 | 25 日 | 障害程度区分聞き取り調査 (高槻市) |
| 27 日 | 障害程度区分聞き取り調査 (高槻市) | 26 日 | 旅行 (出石そばめぐり & 温泉) |
| 28 日 | 障害程度区分聞き取り調査 (高槻市) | 28 日 | 介護福祉士国家試験 (萩の杜の受験者は全員合格! 家族会の皆様には、帰省のご協力いただき誠にありがとうございました。) |
| 29 日 | 萩の杜利用者忘年会 | 30 日 | モデル施設サポート事業参加 |
| 1 月 4 日 | 通常勤務体制開始 | 2 月 5 日 | 歯科検診、旅行委員会 |

- | | |
|-----------------|--------------------|
| 2月 6日 部長主任会議 | 18日 音楽療法 |
| 7日 精神科相談 | 19日 日モデル施設サポート事業参加 |
| 10日 救急救命講座 | 21日 精神科相談 |
| 13日 救急救命講座 | 22日 余暇委員会 |
| 15日 生活支援係り会議 | 24日 生活Cグループ内部研修会 |
| 17日 生活Aグループ内部研修 | 27日 歯科検診 |

ジョブサイトひむろ掲示板

- | | |
|--|--|
| 12月22日 利用者忘年会
ジョブサイトひむろ食堂にて会食と利用者によるマジック・ダンス・歌などの出し物を楽しみました。 | 1月福祉体験実習 中学生2名 延べ2日
1月見学者 4組 延べ6名 |
| 28日 利用者慰労会
各作業グループごとに、茶話会形式で一年間の労をねぎらいました。
※12月ボランティア 3名延べ29日 ありがとうございます。
12月見学者2組延べ5名 | 2月 9日 高槻市の法人監査がありました。9月にご指摘いただいた事項についての改善状況を確認されました。 |
| 1月 8日 開所日（ひむろ、萩の杜利用者が出勤されています） | 12日 開所日（ひむろ、萩の杜利用者が出勤されました） |
| 12日 労働支援課会議 | 13日 エアロビクス①グループ（ゆうあいセンター） |
| 16日 エアロビクス
①グループ（ゆうあいセンター） | 16日 労働支援課会議 |
| 20日 開所日（ひむろ利用者が出勤されました）
松代先生を迎え、食堂にてエアロビクスを実施。昼食（弁当）のあと買い物等を楽しみました。 | 24日 開所日（ひむろ利用者が出勤されました）
利用者の検診（血液検査、レントゲン検査、身体測定、内科検診等）を実施しました。昼食の後、買い物やドライブを楽しみました。検診は、オリエンタル労働衛生協会メディカルクリニックさんにお願しました。 |
| 23日 エアロビクス
②グループ（ゆうあいセンター） | 24日 利用者帰宅後、ひむろにて職員の法人研修会を実施しました。日本経営グループ（株）近畿リスク・マネージメントの海部さん、中原さんにお越しいただき、リスクマネージメントについて学びました。 |
| 29日 エアロビクス
③グループ（ゆうあいセンター）
※利用者・家族面談 15日（月）～利用者・家族との面談を始めました。
①個別支援計画のご説明
②新事業への移行の件
③将来の暮らしについての3つのテーマでお話をさせていただきました。1月中に20組と面談させていただきました。 | 26日 エアロビクス③グループ（ゆうあいセンター）
※2月利用者・家族との面談。19組とお話させていただきました。
2月ボランティア 3名 延べ27日間 ありがとうございます。
※2月福祉体験実習 高槻市立第2中学校から3名
延べ3日
2月実習生 2名 延べ4日
2月見学者 4組 延べ13名 |
| ※1月ボランティア 3名 延べ26日 ありがとうございます。 | （平野 記） |

自閉症支援部掲示板

- 児童デイサービスセンター an
保護者研修（入門・実践・応用講座）各月1回実施
1月13日 平成19年度新規療育児保護者説明会開催
（新規療育児19名）
- 自閉症療育センター will
保護者研修（入門A/B講座—H18年度療育児の保護者対象）、
（実践講座—H17年度の療育児の保護者対象）
各月1回実施
平成19年度療育児募集開始 定員50名
（募集期間：平成19年2月5日～平成19年3月16日）
- 大阪自閉症支援センター
保護者研修（基礎・実践Ⅰ・実践Ⅱ）各月1回実施
大阪自閉症支援センター公開基礎講座（計3回）
大阪府委託発達障害指導員等養成研修（療育者養成研修3回、
療育者実践研修2.5日、保健師等養成研修3回）
豊中市教育委員会巡回相談（幼稚園、小学校 計4回）
泉大津市教育委員会巡回相談（小学校 計1回）
高槻市教育委員会巡回相談（幼稚園・小学校5回）
豊能町教育委員会巡回相談（小学校 計3回）
摂津市教育委員会巡回相談（小学校 計5回）
枚方市教育委員会巡回相談（幼稚園 計2回）
和泉市教育委員会巡回相談（小学校 計5回）
自閉症児の歯磨き指導（於 摂津市小学校）サンスター
歯科保健振興財団事業

研修会・講演会への講師派遣（関西学院大学社会学部、
関西特別支援教育ネットワーク、大阪市加島人権協会、
大阪府豊中保健所、大阪労働局、大阪府商工労働部、
香川大学教育学部特別支援教室、堺市教育委員会、豊
中市教育委員会、高槻市教育委員会、泉大津市教育委
員会、吹田市教育委員会、枚方市教育委員会、門真市
教育委員会、和泉市教育委員会）

- アクトおおさか
12月13日 大阪府発達障害団体ネットワーク運営委員会
（事務局担当）
- 1月9日 大阪府発達障害者支援センター連絡協議会出席
11日 発達障害者支援センター全国連絡協議会役員
会出席（東京都内）
19日 大阪府特別支援教育連携協議会検討部会出席
2月4日～9日
NPO法人ジョブコーチネットワーク主催J
C-NETジョブコーチ養成セミナー受講
（就労支援担当）
4日 大阪府成人期発達障害支援機関連絡会出席
22日 大阪府発達障害団体ネットワーク第3回ネッ
トワーク会開催（テーマ：個別の指導教育・
個別の教育支援計画について）（事務局担当）
（新澤 記）

ジョブサイトよど掲示板

- | | |
|--------------------|------------------|
| 12月1日 施設見学会 中丹養護学校 | 支援員会議 |
| 5日 就労支援プロジェクト会議 | 24日 施設見学会 吹田養護学校 |
| 6日 施設見学会 豊能ブロック会議 | 2月5日 支援員会議 |
| 7日 施設見学会 鈴田の里学園 | 13日 i m s 会議 |
| 11日 i m s 会議 | 14日 利用者健診 |
| 15日 施設見学会 自立活動研究会 | 15日 施設見学会 ミード社会館 |
| 18日 施設見学会 ならやま会 | 16日 給食会議 |
| 支援員会議 | 19日 就労支援プロジェクト会議 |
| 1月9日 支援員会議 | 20日 支援員会議 |
| 15日 i m s 会議 | 26日 施設見学会 名張育成園 |
| 22日 給食会議 | |
- （佐々木寛 記）

萩の杜家族会掲示板

- 12月5日～6日
元紙風船でバザー
- 1月11日 サークル萩

- 14日 役員会 役員12名 出席
 ・家族会役員選出について
 ・資金部からバザー結果報告
 ・今後のバザー運営方法について
 ・建物内破損箇所について
- 21日 定例会 会員25名 中村理事長
 松上施設長 河坂副施設長 出席
 ・次年度 家族会役員選出について
 ・資金部とバザー担当の
 役割分担見直しについて
 ・施設から萩谷公園までの歩道工事完了報告
 ・障害程度区分認定について
 ・各グループ共用部分 掃除について
 ・高槻カトリック教会 花販売
- 22日 サークル萩
- 29日 機関紙 発送手伝い

- 2月13日 母親 親睦会
- 18日 カトリック教会 花販売
- 20日 栄養士さんとホットトーク
- 22日 サークル萩
- 25日 定例会 会員25名 松上施設長
 河坂副施設長 今村副理事長 出席
 ・イオン幸せの黄色いレシートに関する報告
 ・食事感想ノート新設について
 ・施設への要望について
 ・新年度役員について
 父親に参加協力お願いする
 ・避難訓練について
 ・保護者による清掃について
 ・その他

(大橋 記)

ジョブサイトひむろ家族会掲示板

- 12月5日 定例会
 ①障害者程度区分の判定結果の概要
 ②新事業体系への移行の場合の概要
- 1月26日 役員会
 ①今年度～次年度総会までのスケジュール確認
 ②次期体制について
 ③その他
- 1月28日 「父親の会」開催
 父親参加者18名・法人幹部中村理事長・今村副理事長・松上常務理事・平野ひむろ施設長・佐々木よど施設長
 内容 ①施設見学(ジョブサイトよど)
 ②法人幹部の講話と概況説明
 ③会食懇親会

- 2月20日 平成19年度家族会役員の立候補受付
- 2月23日 役員会
 ①次期役員体制について
 ②家族会会費自動引き落としの件
 ③借入金返済状況について
 ④支援費の個別減免について
- *アンケート調査事項
 ①家族会会費自動引き落としについて
 ②「父親の会」出欠について
- *会員の動態 2月1日
 西山滋樹さん退会 武田和子さん入会
- *将来構想検討委員会(会長出席)
 12月13日・1月24日・2月21日

(沖本 記)

北摂杉の子会後援会掲示板

<近況報告>

萩の杜家族会、ジョブサイトひむろ、ジョブサイトよどの家族会を含む多くの方々のご支援のおかげで、後援会の会員数は徐々にですが増えています。また、ご寄付も頂いています。この場をお借りしてお礼申し上げますとともに、今後ともより一層のご協力をよろしくお願い申し上げます。

- ・2006年12月末
 個人会員：571名
 団体会員：19団体 合計：590名/団体

- ・2007年01月末
 個人会員：572名
 団体会員：19団体 合計：591名/団体
- ・2007年02月末
 個人会員：572名
 団体会員：19団体 合計：591名/団体
 (今年度の新規会員：個人；83名、団体；6団体)

(棚山 記)

ジョブサイトよど家族会掲示板

- 12月4日 家族会役員会開催。100円喫茶実施。
- 7日 大阪府発達障害団体ネットワークで、100円喫茶実施。
関西学院大学社会学部へボランティアの依頼。(会長)
- 13日 12月家族会定例会開催。会員19名参加。
淀川区保険センター地域保健福祉課生活環境係長森河内巖氏に「衛生について」講義を受けました。
100円喫茶実施。
- 14日 オアシス役員会で100円喫茶実施。
- 19日 淀川区社会福祉協議会へボランティアの依頼。(会長、副会長)
西区社会福祉協議会へボランティアの依頼。(会長)
大阪経済大学人間科学学部へボランティアの依頼。(副会長)
大阪人間科学大学へボランティアの依頼。(副会長)
- 1月11日 オアシス役員会で100円喫茶実施。
- 13日 十三市に参加。
- 15日 家族会役員会開催。100円喫茶実施。
- 18日 チャリティー寄席準備の為、臨時家族会役員会開催。
- 30日 チャリティー寄席準備の為、臨時家族会役員会開催。
十三振興町会会長宅、十三東2丁目町会会長宅訪問(会長、副会長)
- 2月1日 オアシス副会長和泉歯科医師に家族会から、
歯科検診依頼。
利用者11名歯科検診受ける。
- 5日 家族会役員会開催。100円喫茶実施。
- 9日 チャリティー寄席前日準備する。
- 10日 チャリティー寄席 桂一蝶氏を迎えて実施。
利用者、松上常務理事、総務中山氏、施設関係者
ボランティア(淀川社会福祉協議会、西区社会福祉協議会
関西学院大学)地域住民、保護者参加。80名
- 13日 十三市に参加。
- 22日 大阪府発達障害団体ネットワークにオブザーバーとして参加。(副会長)
- 28日 JSよど通信4号発行。

(福田 記)

大阪自閉症支援センターを発展させる会 オアシス掲示板

- 12月1日 学習会「困っちゃった」(研修委員会)
於：大阪市長居障害者スポーツセンター
- 2日 児童デイサービスセンター an 新規療育児募集説明会参加
(会長・副会長)
- 7日 大阪府発達障害団体ネットワーク運営委員会
(前会長・会長)
〃 公開基礎講座のサポート
於：社会福祉指導センター(研修委員会)
〃 谷岡とし子先生の関西学院大学での講義を取材
(前会長)
- 14日 役員会
- 22日 各種案内発送(事務局)
- 1月11日 役員会
- 15日 大阪市内の発達障害団体ネットワーク
「ホットメールなにわ」出席
(副会長・研修委員長)
- 18日 公開基礎講座のサポート
於：社会福祉指導センター(研修委員会)
- 19日 エルアイ武田見学会(就労委員会準備会)
〃 第3回ネットワーク会「個別の指導計画」に関するアンケート調査票実施
- 20日 おやじの会1月例会「余暇活動」
- 2月4日 役員会
- 8日 第2回オアシス保護者実践報告会
於：ドーンセンター(研修委員会)
会場にて書籍販売と募金活動(収益委員会)
- 10日 ジョブサイトよどチャリティー寄席にてミニバザー
(会長・副会長)
〃 おやじの会2月例会
「おやじ、こどもの就労を考える。」
- 15日 公開基礎講座のサポート
於：社会福祉指導センター(研修委員会)
- 22日 大阪府発達障害団体ネットワーク第3ネットワーク会
於：ドーンセンター
〃 NHK アンケート調査に役員会が協力

(南木 記)

